

令和8年7月20日（月）

読売新聞 朝刊・地域面奈良

2026年(令和8年)7月20日(月曜日)

言

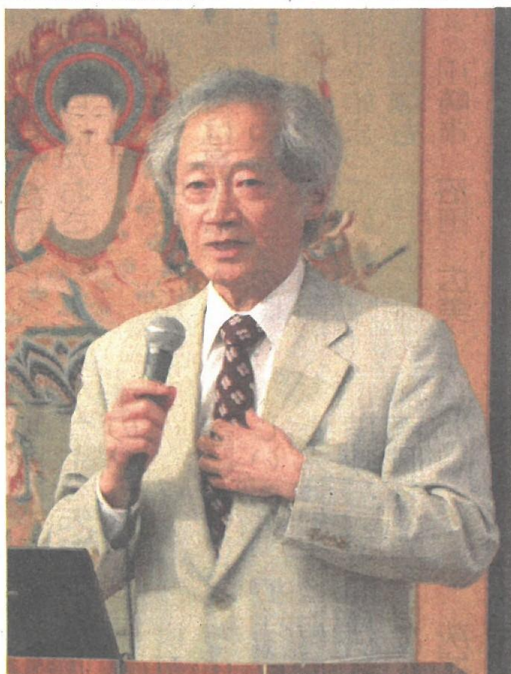
「紫」飛鳥期から高貴な色

シリーズ植物学 矢崎・京大名誉教授講演

薬師寺月例

まほろば塾

日本人の美しい心や豊かな文化を伝える「月例奈良まほろば塾」（読売新聞社後援）が19日、奈良市の薬師寺で開かれた。植物をテーマに学びを深める全3回の「シリーズ植物学」の初回。京都大名誉教授の矢崎一史さんが「飛鳥の『紫』、今のムラサキ」と題して講演し、約200人が聴き入った。



植物のムラサキについて説明する矢崎さん（奈良市で）

多年草のムラサキは、根にシコニンという赤い色素を持ち、熱水で抽出し、ツバキの灰を媒染剤に使うこ

とで紫色の染料となる。聖徳太子が定めたとされる冠位十二階では最上位の色が濃紫色であり、矢崎さんは

「位の低い人は着ることが許されない『禁色』とされ、飛鳥時代から特別な植物として扱われていた」と説明した。薬用植物でもあり、こう葉はやけどなどの皮膚のトラブルに効く。矢崎さんは「民話に登場する万病に効く薬のモデルにもなっている」と話した。

ムラサキは人気の植物だが、ほとんど色素を作らないセイヨウムラサキという外来種もある。見た目では区別が難しく、矢崎さんは「インターネットなどでセイヨウムラサキを『ムラサキ』として販売している」と注意を呼びかけた。

次回の月例塾は8月16日、高上馬希重・北海道医療大教授が登壇する。